



## グリーンツーリズム発祥の地

大分県北部の山あいの盆地に位置する宇佐市安心院町は、米とぶどうの生産が盛んな農村であり、“グリーンツーリズム発祥の地”と呼ばれている。その中核を担う安心院町グリーンツーリズム研究会は、平成8年に発足した。事務局長の植田淳子氏は福岡生まれ東北育ちであり、地元の住民ではないが地域の強い要請を受けてIターンした。進学先の奈良県で大学院生をしている際、研究の一環で訪れた安心院のファンになり、長期休暇を利用して2週間で11軒の民家に宿泊し、その明るい性格で地域の人々に広く受け入れられていった。「安心院にいつか恩返しをしたい」と考えながら、福岡の地域活性化関連の出版社に就職。その後、NPO 法人安心院町グリーンツーリズム研究会の宮田静一会長より、事務局長就任の依頼を受け、当法人の取り組みに深く関わることになる。植田氏は「グリーンツーリズムを通じた都市と農村の交流によって、町の基幹産業である農業を守り育てていく。そして後継者を残していくことが一番の活動の理念」と語り、地域の人たちと一緒にしながら、女性の視点、外からの視点で安心院のグリーンツーリズムに取り組んでいる。



植田 淳子氏 (うえだじゅんこ)

NPO 法人安心院町グリーンツーリズム研究会 事務局長。福岡市生まれ。奈良女子大学大学院博士前期課程 国際文化研究科地域環境学コース修了。院生の時に、「安心院町グリーンツーリズム研究会」を知り、調査・研究を兼ねて大分・安心院を訪れる。卒業後『九州のムラ』を出版。福岡の会社に就職。その後、当法人より声がかかり、平成16年専任事務局長に就任

取組主体 NPO 法人 安心院町グリーンツーリズム研究会 (<http://www.ajimu-gt.jp/>)  
設立年 平成8年(1996年) ※前身となるアグリツーリズム研究会は平成4年に立ち上げ  
住 所 大分県宇佐市安心院町下毛 1046 電話 0978-44-1158 FAX 0978-44-0353

## 地域の課題

ぶどう農家の担い手不足。耕作地の荒廃



## ソリューション

名物イベントのワイン祭りを活かした農村民泊の広がり【アグリツーリズム研究会】

農村民泊の仕組みをつくる



親戚となる会員制度、客ではなく一緒に働く宿泊スタイル【安心院方式の農村民泊】

(地域の特徴)

## 農業活性化から農村活性化へ視点を転換

安心院町では、昭和40年代から国営の開拓パイロット事業により、大規模なぶどう畑の開拓が行われた。一時は西日本一の生産面積を誇るほどに発展したが、生産者の高齢化に伴い、耕作地が減少、担い手の不足が問題となった。平成4年、地域の行く末を懸念した大分県の担当者と安心院の農家8人が「アグリツーリズム研究会」を発足させた。“ぶどうの町・安心院”としての灯が消えないよう、都市（消費者）と対等に手を結ぶ方法を模索した。平成8年には農業に限らず農村に住むすべての人、さらには町外からも応援団を募り、「安心院町グリーンツーリズム研究会」が発足。地元の人々はなかなか田舎の良さを理解することができなかったが、当時の安心院町長は民間から発足したこの新しい運動を応援した。平成9年には安心院町議会（当時）が“グリーンツーリズム推進宣言”を議決し、平成13年には町役場内に「グリーンツーリズム推進係」が新設されるなど、バックアップ体制が整えられた。

(取り組み概要)

## 十回泊まれば本当の親戚「安心院方式の農村民泊」

安心院グリーンツーリズムは全国に先駆けて「農村民泊」に取り組んだ地域として知られる。一般の農家が観光客を受け入れるために「会員制度」を導入。また、農村民泊中の観光客は、至れり尽くせりのサービスではなく、親戚として農作業の手伝いや田舎料理を一緒に作るなど、安心院ならではの宿泊を体験するのである。こうした一日一組の農村民泊は「安心院方式」とも呼ばれ、「一回泊まれば遠い親戚、十回泊まれば本当の親戚」というキャッチフレーズで大きな注目を集めた。それまで一般の農家に観光客を泊めることに対して「旅館業法や食品衛生法に抵触するのでは」との指摘もあったが、平成14年に大分県が「グリーンツーリズムにおける農家など民宿に係る旅館業法及び食品衛生法上の取扱について」（グリーンツーリズム通知）に、翌年に国が「旅館業法施行規則」に、安心院方式を参考にした内容を盛り込んだ。安心院町の取り組みが制度を変えたのだ。



NPO 法人安心院グリーンツーリズム研究会の宮田静一会長。観光カリスマにも認定されている



安心院の農村が、安心院らしい魅力を伝える観光の場となっている



農村民泊では屋号も農家の皆さんが自分で考える



親戚の家に来たように、くつろぎと農村の営みを農家と観光客と一緒に楽しむ

## 地域の課題

農村のなげない魅力を資源として活用できないか

グリーンツーリズムの後継者の育成

## ソリューション

安心院の魅力を掘り起こしたイベントの展開【薫こずみ大会の実施、スローフードフェア、饅絵見学など】

講習や体験などの実施【大分・安心院グリーンツーリズム実践大学】

(地域資源の発掘と活用術①)

## 安心院の文化を住民と観光客が共に楽しむ

安心院町ではNPO 法人安心院町グリーンツーリズム研究会の会員を中心に、年間を通じた様々なイベントに取り組んでいる。

安心院町では当たり前のように見られる薫こずみを観光資源として活用したイベントが「全国薫こずみ大会」である。この大会は農村文化の伝承や世代間、地域間の交流を目的に平成11年から開かれてきた。第10回大会でその歴史に幕を下ろしたが、宮田会長は「当初から10回を目標に頑張ってきた。グリーンツーリズム推進の上で大きな役割を果たした」と語る。

薫こずみ大会に続くイベントとして誕生したのが「大分・安心院スローフードフェア」である。全国の安心院ファンら多くの人が集まり、宇佐地域の豊かな“食”にこだわり、その魅力を堪能するイベントで、宇佐地域の伝統食や農泊家庭が作る地域食の試食会などが行われている。その他、“田舎らしい農村景観づくり”と“冬のおもてなし”のために、町内に柿の木を植える「祇園坊講演会（祇園坊とは京都生まれの渋柿の大粒種）」、年間を通じて農業体験する「マイ米（マイ）物語」など、様々な企画が進められている。

(地域資源の発掘と活用術②)

## 大分・安心院グリーンツーリズム実践大学

研究会の取り組みの柱の一つとして、グリーンツーリズムの担い手育成と地域へのグリーンツーリズムの普及がある。それを具体化したのが「大分・安心院グリーンツーリズム実践大学」である。土日を使った一泊二日で開催されるこの実践大学は、1日目は座学を中心とした講習会、2日目は実際に農家や農地に出て体験をするといったプログラムとなっており、2ヶ月に一回程度の頻度で開催されている。グリーンツーリズムに参加している農家やこれから始めようとする方々がこの実践大学に参加し、他の地域の実践者や講師と交流しながら学ぶことによって、自分たちのレベルアップを図っている。



全国薫こずみ大会からスローフードフェアへ。より楽しく、深く変わる安心院町



安心院町に数多く残る、「饅絵（こてえ）」を見学できるツアーもある



実践大学ではピザ焼、絵手紙など、農村を楽しむ様々なプログラムにチャレンジしている

# 「国内外の視察・研修受け入れ」ができるまで

(地域資源を観光事業に活かすまでのプロセス)

農業体験や教育旅行の世界では先進地として知らない人はいない安心院のグリーンツーリズム。年間の受け入れ実績はおよそ6,500人。その3/4を占める約5,000人が教育旅行などで同地を訪れる中学生や高校生である。そして、この修学旅行に次いで多いのが、年間約1,500人に及ぶ国内や韓国など海外からの視察や研修なのである。

安心院が韓国からの視察・研修を受け入れるようになったきっかけは今からおよそ10年前。日本の研究者と官僚が韓国の研究者とともに同地を訪れた。「最初は日本の方と一緒に韓国から大学の先生方が数人来たが、その中の一人が韓国の官僚の方を数人連れてまた来てくれた。今度はその官僚の方がまた別の方を連れて来てくれた。当初は、国の関係者が多かったが、徐々に自治体の関係者も増えていった。韓国国内で中央から地方へ、関係者の間で安心院の話を口コミで広げていただいているようである。」と宮田会長は語る。

安心院では韓国からの研修・視察の受け入れにあたって特別なプログラムがある訳ではない。むしろ視察や研修の典型でもある施設見学や関係者のレクチャーは最小限に抑えられており、「見て、話を聞くだけでは安心院まで来ていただく意味がない。画一的でプログラム化された内容ではなく、しっかりと安心院式グリーンツーリズムを体験して、感動して欲しい。我々受け入れ側からすれば、修学旅行も研修も、日本人も韓国人も、高校生も役所の方も、皆同じ。精一杯のおもてなしをするだけ。勿論、研修に参加した方が今度は個人で来てくれたらこんなに嬉しいことはない」宮田会長は笑顔を交えながらそう語る。



韓国人研修参加者と受け入れ家庭のお母さん、お父さん。到着時には緊張していた参加者も、翌日には自然と笑みがこぼれるようになる



通訳がいなくても不思議と会話が成立するのも、国境すら越えた「親戚づきあい」だからこそ

## NPO 法人安心院町グリーンツーリズム研究会の研修講師

◆ 講師一覧表		
会長	宮田 静一	1992年アグリツーリズム研究会発足時から関わり、1996年グリーンツーリズム研究会より代表を務める。大分県グリーンツーリズム研究会代表も兼任。2003年に国土交通省の観光カリスマに認定される。専業でぶどう農家・直売所を営む。
事務局長	植田 淳子	福岡生まれ。東北育ち。2004年に事務局長任務を受け、福岡の民間会社から安心院に移住。事務局全般を統括している。
広報部長	本多 雅子	研究会発足当初より、町内会報や活動報告書の作成など、会の広報を担当。農泊「そごりの舎」を運営。
農泊部長	矢野 英子	農泊部代表「龍泉亭」を運営。農泊部の活動や料理について。お母さん百瀬に認定。※他に農泊「やわらかまんじゅう」(糸永玲子)、農泊「舟板昔ばなしの家」(中山ミヤ子・お母さん百瀬に認定)など多数講師。
アグリ部長	富川 芳郎	年間を通じて行う農業・農村体験イベント「マイ米物語」の企画、運営を行う。農泊「しいたけ村」を運営。
企画開発部長	石田 寛蔵	「全国薬こずみ大会」「祇園坊講演会」などイベントの総合企画代表。10年連続で薬こずみ大会実行委員長任務を達成。
環境美化部長	新聞 洋一	毎月一度、全町あげての美化運動の啓蒙。自然環境や保全について考える「リバーサイドウォーク」の企画・運営。
大分・安心院スローフードフェア実行委員長	時枝 仁子	企画開発部副部長を兼任。「大分・安心院スローフードフェア」の総指揮を務める。農泊「百年の家ときえだ」を運営。お母さん百瀬に認定。
大分県グリーンツーリズム研究会事務局長	望月 陽子	大分県下13のグリーンツーリズム研究団体を統括する事務局長。農泊「竹取物語 もっちゃんち」を運営。